

2023(第25回)全国中高等学生日本語学力競試大会

＜2次大会（スピーチコンテスト）発表原稿＞

高等部13名 / 中等部8名

社団法人 韓日協会

自分の目指す「調和」というもの

김경민(金景珉, Kim Kyeong Min)

おはようございます、私はキムキョンミンと申します。みなさまはどのような経験を通じて日本という国に興味を持つようになりましたか。多分ここにいらっしゃる多くの方は日本のドラマやアニメ、ファッションのような文化に興味を持ち、その関心もさまざまな分野に渡っているでしょう。これから自分の興味分野についてお話ししたいと思います。

私も小中学校の時、テレビから流される日本のアニメーションを見たり、日本の推理小説を読んだりしながら育ちました。文化の面では日本という国はバリアフリーの状態だったと言えるでしょう。

そして私はある日偶然街で大福を売っている大福屋さんを見つけました。振り返れば、その時の私はそれが日本の大福だという事実も知らないまま、ただ「美味しそうに見えるあの餅が食べたい」という単純な好奇心にかられてそのお菓子を食べたのだと思います。それはマスカットが入っている小豆のお餅でした。後日、私はメディアを通じてその時の餅は日本の大福だということを初めて知りました。それをきっかけに私は日本の文化にもっと関心を持つようになり、日本のお菓子も大好きになりました。私は日本ならではの和菓子やドジマロールのようなデザート、洋菓子、和菓子などを食べながら韓国にはない日本菓子の食感や味に感動しました。

こうやって日本の文化、とりわけ食べ物の文化に対して関心を持っていた私はもっと正確な知識を得るために、文化だけではなく日本語という言語の必要性を感じました。初めて習った新鮮な言語だった日本語は単語も漢字も全部面白くて、私は何の抵抗もなく日本語を身につけました。

時間は流れ、日本の言語と食文化両方に関心を持ったまま、私は外食分野における経営や会計などを学ぶ高校に進学しました。私は今高3で、入学して以来、学校で世界の料理を勉強し、研究しています。幼い頃からの日本の食文化への関心が高校まで繋がったのです。

このような経験が積み重なり、私は日本と韓国の食べ物、その中でも両国それぞれの文化がのぞける伝統菓子の特徴について、自然と興味を持つようになりました。皆様は韓国と日本の伝統菓子の違いについて考えたことがありますか。私がまず気づいたことは、日本の伝統菓子である和菓子は食材として小豆が豊富に使われていることです。そして韓国の伝統菓子は油に揚げたものが多いですね。また、韓国の伝統菓子は大部分が発酵菓子であることに比べ、和菓子はほとんど発酵過程がないということも分かるようになりました。私はこのように両国のお菓子についてもっと分析、研究して、将来は両国の人々に好まれるような素晴らしいお菓子を誕生させて、それをもって両国間の調和を図りたいと思います。

このような方向でもっと知識を深めるために私は大学の専攻として日本学科を目指しています。今や情報化時代を生きていて、アニメやファッションなどの興味本位の文化ならいつでも触れることができますが、私は限定的な文化に限らず多様な文化に接しながら研究を深めたいと思ったからです。そしてこれからも隣国として助け合うべき日本といろいろな分野で交流を持つことが大事だと思います。

ご清聴ありがとうございました。

信念は淡々と、だけど燦々と。

김재부(金宰敷、Kim Jae Boo)

皆さん、こんにちは。金海外国語高校2年生のキム・ジェブと申します。突然ですが、皆さんは買い物は好きですか。私はというと、正直好きでも嫌いでもありません。そんな私ですが、何年か前に買い物へ行った時、とあるお店でひらがなが刺繍されている帽子を見つけました。その当時も日本語はすでに勉強していたので、ひらがなを読むことはできたのですが、「なんか不思議なデザインだなあ。もしかして人の名前？」くらいにしか思わなかったのです。

そして、時は流れ、今回このスピーチのテーマを決めるに当たって、いろいろな人物を調べていた時に、ふと見たことあるような名前があったんです。「布施辰治」。しばしの沈黙のあと、あの時の帽子に刺繍されていた名前だと思い出したのです。そして、これは何かの縁だと感じ、ちゃんと調べてみると、思ったよりもすごい弁護士さんのお名前だったのです。今日はそんな「布施辰治弁護士」について話したいと思います。

布施弁護士は1880年、宮城県の小さな町で生まれました。彼は中高生の時、日本が様々な国と戦争するのを見て、戦争や帝国主義などについて疑問を持つようになりました。そして彼は、人を助け、他人の力になるという信念を持って検事になりました。しかし、彼は当時の日本の法律とその適用について問題があると感じ、もっと多くの人を助けられるという判断の元、検事を辞めて弁護士になりました。

そして、彼は弁護士で活動する時、植民地だった韓国ともいろいろな形で関わるようになりました。

日本が韓国を強制的に併合してから、彼は日本人でありながらも日本を批判して、韓国の独立を支持する記事を書きました。また、警察に調査されてからは、より一層韓国の独立運動家を弁護することに尽力しました。このように日本の韓国併合が明らかな過ちだと考えた彼は、韓国の独立後にも在日韓国人関連の事件を担当しながら、韓国と疎遠になることはありませんでした。

ここで皆さんは布施弁護士は「どうして同じ国の人でもないのに、自ら危険を顧みず、他人を助けようとするんだ」と思っているかもしれません。

ここからはその話をしたいと思います。私が思う彼の行動の源は「信念」です。彼は当時日本の全体主義的な雰囲気にも関わらず、自分の信念を守りながら、韓国の独立を手助けしました。実際、彼は自分の一連の行為によって弁護士の資格を剥奪されたり、投獄されたりもしました。普通の人間ならそこで諦めて、自分を守るため、安全な道を探したでしょう。しかし、彼はそんなことを一切気にせず、自分の信念を貫き通しました。そこがまさに彼の尊敬される所だと思えます。

私は彼のこのような話を見て、私はどうやって前へ進めばいいのか、悩み始めました。その結果、私も自分の信念に基づいて、自分の夢を叶える為に努力していけばいいのではないかという考えに至りました。

私の信念は他人に振り回されず、正しいと思うことを最後まで貫き通すことです。それは布施弁護士の信念とも通じる部分がありますよね。私の夢は日本語の通訳者です。もし、私が日韓の間の通訳をしたら、どちらかに偏っていたと批判する人もいるかもしれません。しかし、私は自分の正しいと思う通訳をしたいです。

また、布施弁護士は不当なことに声をあげられる人でした。私も彼のそんな姿を見習って、理不尽な要求をされたら、黙り込むのではなく、堂々と声をあげられる人になりたいと思います。私は布施弁護士の話を教訓にして、高校生として、いや一人の人間としてもっと成長していけるように頑張ります。ご清聴ありがとうございました。

日本語で広がる夢

김태린(金泰粼、Kim Tae Rin)

皆さんこんにちは。私はソンアム国際貿易高校3年生のキムテリンと申します。私が今ここでスピーチをすることが出来るのは、9年前の私の決心のお陰です。あの決心がなかったら、決して今の私はないと思います。私が小学校3年生の時、偶然日本のアニメを見ました。当然ですが、最初はキャラクターが何を喋っているのか、全く理解できませんでした。しかし、今まで感じたことのないようなときめきを感じました。私の周りには日本について興味がある人はいなかったのに、急に興味が湧いてきたのです。それから私は「日本語を勉強して、自由自在に話したい!」と、ふと思うようになりました。幼い頃、その「ふと思ったこと」で私の未来は大きく変わりました。

学校の国語や数学のように日本語を勉強したことはありません。日本の歌を聞きながら発音を書いてみたり、好きなアニメの雑誌を買って毎日見たりしました。最初は聞き取れなくても、読めなくても、日本語ということだけでワクワクしました。歌詞の単語が少しずつ分かるようになり、雑誌のひらがなとカタカナも一文字ずつ読めるようになりました。本格的に日本語に情熱を持ったのは小学5年生の時です。声優のラジオを翻訳したり、映像に字幕をつけたりして徐々に日本語が上達できました。声優の日本語を聞きながら正確な発音とイントネーションを練習しようと頑張りました。特に韓国の人にとって難しい「つ」や「ざ」のような発音も練習しつづけました。中学校の時には学校の勉強にあまり身が入らず、落ち込んでいた時期があったのですが、この時も日本語が私の支えになりました。ある程度日本語を自由に使えるようになってからは、日本語で日記を書いたり、日本語で考えるなどいつの間にか日常に日本語が自然と溶け込んでいました。高校生になってからは学校で日本語の基礎と文法を学びました。先生から日本語を学ぶのは初めてだったので、普段気になっていたことを先生から教えてもらって嬉しい気持ちになりました。大会に出て、資格を取って、中学校まではただ一人で勉強してきた日本語を、高校生になってからは色んなところで発揮する機会が多くなりました。日本語を勉強する過程で私の夢も見つけました! 私の夢は声優になることです。韓国で日本のアニメを吹き替えする際、ヘッドホンで日本語の音声を聞きながら吹き替えます。日本語ができると、吹き替えの練習をする時に日本語のセリフを聞いてセリフのニュアンスがよりよく理解できます。日本語は私の夢と深く関わっているのです。

私は日本語を勉強することによって私の未来がいい方向に変わっていくと思っています。「日本語に興味を持たなかったらどうなったのかな?」と思うぐらい、私の人生において日本語はとても重要なものの一つです。まだまだ知らないこと、足りないことが多いので、これからも勉強することをやめず色々な経験をしたいです。そして、日本の人とたくさん交流して韓日の関係をもっともっと明るくしたいです。最後に、私が好きなセリフを言ってスピーチを終えます。「出会いが一つ形を変える。知らずにいた熱のありかを、溢れてくる思いを手に帯びて、また次のページをめくる。」ご清聴いただきありがとうございました。

僕の一番のボランティアへ

류의석(柳宜錫, Ryu Ui Seok)

皆さんはボランティアと聞いたらどんなことを思い浮かべますか？僕が考えるボランティアというのは何の見返りも求めず、ただひたすら人を助けることを指します。ボランティアで有名な人と思ったら皆それぞれ思い浮かぶ人が違うと思いますが、今日は僕にとって間違いなく一番のボランティアだと思う僕の母について話していきたいと思います。

僕がまだ子供の頃の話です。その時の僕は酷い病気にかかってしまい、早く病院に行かなければならない状況でした。けれども僕は慶州のアンガンという小さな田舎町で生まれ育ったため、周りに病院がほとんどなく、一番近いのが歩いて一時間ぐらいの所にある病院でした。当時はバスもあまりなかったし、一台しかない車は父が出勤のために使っていたので母は僕を背負い、一時間もかかる距離を歩いていきました。

次は去年のことです。2020年に発生したコロナウイルスの影響によりほとんどの学校が修学旅行を自粛していましたが、僕が高校二年生になった去年は死亡者も減り、影響も少なくなっていたため、修学旅行が再開され、済州島に行くことになりました。しかし、その費用が決して安くはなかったため、最初は行かないつもりでした。でも、それを知った母は僕に「人生で一度しかない修学旅行に行かないなんてダメよ。お金のことは気にしないでいいから楽しんで来なさい」と優しい声で言ってくれました。母からの応援の言葉を聞いた僕は旅行に参加し、大切な友達とかけがえのない思い出を作ることができました。

このように僕の一番のボランティアは僕の健康や楽しい生活を守るために一生懸命頑張ってくれました。しかし、もしその人がこの先もずっと僕の一番のボランティアとして居続けたいと思っているのだったら、僕はその考えに間違いなく反対します。なぜなら、それはあくまでも息子である僕のためであり、母自身のためとは決して言えないからです。僕は「母さんはあなたが幸せな姿を見てだけでも幸せなんだよ」というような母親としての感情を否定しているのではありません。僕が心配しているのは健康のことです。小さいころ、僕は一時間もかかる距離を母が背負って歩いてくれたおかげで元気になりましたが、その時母はまだ幼い僕たち兄弟三人を連れて、往復で二時間もかかる距離を歩いていったのです。そのせいで母は腰を悪くしました。また、去年の修学旅行のおかげで僕は楽しい旅行ができ、大切な思い出を作ることができましたが、その後母はバイトの数を増やしました。それで筋肉痛と眠気に襲われてとても疲れているように見えました。

母になるというのは想像できないぐらいの責任感が要求されます。でも、その責任感から自分の体調を崩してしまうぐらい無理をするのは決していいことではありません。最後に、この場で僕の一番のボランティアになって僕を支えてくれた人に伝えたいです。「ありがとう。」

ご清聴ありがとうございました。

夢は見るものじゃない、叶えるものだよ。

문설향(文高香、Moon Seol Hyang)

こんにちは。私は金海サンムン高校の3年生、ムン・ソルヒャンと申します。どうぞよろしく申し上げます。

皆さん、皆さんは「アイカツ」という日本のアニメをご存知ですか。アイドル活動という意味の「アイカツ」はアイドルになりたい女の子たちが一生懸命、自分を磨いたり友達と競争しながら成長していく内容のアニメです。なぜ「アイカツ」について話したのかというと今の私は「アイカツ」あつての私だからです。

一人っ子で共働きの家庭で育った私は人見知りで家族以外の人とほとんど話す機会がありませんでした。そのため小学生の時、友達ができず、ほとんどの時間を一人で過ごしました。そんな私の友達になってくれたのは日本のアニメの「アイカツ」でした。「どんなことも、マイナスにとらえるかプラスにとらえるかは自分次第」このような「アイカツ」の台詞にいつも私は慰められました

最初はテレビで放送する吹き替え版を見ましたが、次回が待ちきれなかった私は字幕版で見るようになりました。「アイカツ」の字幕版を見たり歌を覚えたりしながら私はいつの間にか少しずつ日本語が聞き取れるようになっていました。だんだん日本語にも興味を持つようになり、「私も日本語を話せるようになりたい」、「字幕がなくても日本語がわかるようになりたい」と思うようになりました。しかし、面倒くさがり屋の私は思っているばかりですぐ行動に移しませんでした。

そんな私は小学校6年生の冬「夢は見るものじゃない、叶えるものだよ。」という「アイカツ」の「スタートライン」という曲の歌詞を聞いて刺激を受けました。「そう、私ずっと日本語ができるようになりたかった」と思い、すぐ日本語の本を買って日本語の勉強を始めました。ひらがなから一つ一つ覚えていく過程は達成感があってとても楽しかったです。少しずつ日本語が分かるようになっていくのが楽しくて私は日本語の勉強が好きになりました。日本語の勉強が大好きで、少しでも時間があつたら日本語の勉強をしました。そのおかげで学校で私は日本語が上手な子、日本語が好きな子で知られていました。日本語の授業の成績ももちろん良かったので学校の先生にも友達にも認めてもらうことができました。「私もやればできるんだ」、「大好きな日本語をもっと深く知りたい」と思い、私は日本語能力試験を受けることにしました。独学で勉強するのは大変でしたが、頑張った結果、私は高校1年生の時N1を取得することができました。

今私は、日本留学に向かって一生懸命頑張っています。勉強が大変で辛い時もたくさんあります。でもそんな時「夢は見るものじゃない、叶えるものだよ。」という言葉を中心に刻んで頑張っています。私には大きな夢があります。それは大好きな韓国と日本の架け橋になり、日韓関係に貢献したいという夢です。簡単ではないかも知れませんが、でも私はアニメで見た「アイカツ」のように頑張りながら成長していきたいです。皆さん、皆さんも私と一緒に夢を叶えるために頑張りませんか。ご清聴ありがとうございました。

私たちの未来像

박정엄 (朴呈俺、Park Jeong Um)

初めまして、박정엄と申します。今日皆さんとこうしてお会いできて嬉しいです。それでは、今から「夢」についての私の考えをお話します。

皆さんは今夢を持っていますか？こんなことがしたい、あんな人になりたい。持っている人もいれば持っていない人もいます。実際私は、今も夢について考えています。皆さんもご存じの通り、私たちは小学生の頃から学校で何になりたいのかを問われます。遊びのような形だったあれば、年を取るにつれてより具体的で現実的な答えを求めてきます。私も小学生の頃には堂々と話せる夢がありました。あまり真剣に考えたものでもなかったのが中学生になり、現実的ではないとその夢を諦めるようになった時にも、そんなに悲しくはありませんでした。問題はその後でした。夢について悩んでいる人にアドバイスとしてよく言う言葉があります。「あなたの好きなことについて考えてみて。」好きなことをするのはいいことです。ですが、本当にそれだけでいいのだろうかとは私は思いました。好きなことについて考えてみてもその職業の将来の展望はどうか、自分はその職を上手くできるのか、などの現実的な疑問がどうしても浮かんできました。それで悩んで、迷って、夢について問われる度にまだ決まっていなと言ってきたんです。日本語を学び始めたのはそれが何年か続いて私が高校1年生になった頃でした。小学生の頃からずっと日本のアニメを見てきたので、日本語を聞いて理解するのはある程度できましたが、読むのはできませんでした。だからといって、日本語を学ぼうとはしませんでした。なぜなら、正直日本語を読めなくても生きていくのに問題がなかったからです。また、既に英語を学んでいるのに外国語をもう一つ学ぶというのは負担が大きいと考えたからです。それなのに日本語を学び始めたのは、その時期に韓国語のサービスのない日本のゲームを始めたことがきっかけでした。翻訳機なしに読みたい、理解したい、その欲望が、私を日本語勉強に導いたのです。この時点までは日本語はただの趣味で、職業までは繋がらないだろうと思っていました。でも日本語で色んなものを見たり、知らない単語について調べたりする過程で、日本語の勉強自体が楽しくなり、実力も段々伸びてきて、今では日本に関わる職業につきたいと思うほどになりました。この程度ではまだ足りないというのは分かっています。うまくいけるのだろうか、不安がないとは言えません。それでも今度決めたこの道は諦めたくないと思っています。

明確な夢を持っていることは素敵なことです。ですが、まだ夢を持っていないとしても全然悪くありません。夢というものは思ってもいなかったことから、思ってもいなかった時に始まる場合もありますよ。一つ皆さんにお勧めしたいことは挑戦すること。できないだろうと早めに諦めないで何でも挑戦してみてください。案外できるかもしれません。皆さんが素敵な未来を描いていくのを心から願っています。ご清聴、ありがとうございました。

日本の可愛い論争

박진형 (朴眞亨、Park Jin Hyeong)

みなさんこんにちは。 江原外国語高校 1 年生の朴ジニョンです。

みなさんは『きのこの山』『たけのこ里』という日本のお菓子を知っていますか？わからない方もいらっしゃるかもしれないので、この2つのお菓子についてご説明します。まず、『きのこの山』というお菓子は韓国で売られている『チョコソニー』と形が似ています。きのこの山は明治製菓が1975年に発売したチョコレート菓子です。日本で、ものすごい売り上げを伸ばしたきのこの山のその特徴は可愛らしいきのこの形をしているのと軸がクッキー、傘の部分がチョコレートでできています。次に『たけのこの里！』たけのこの里は韓国の皆さんは少し馴染みのないお菓子だと思います。なぜなら韓国では滅多に見る機会がないからです。たけのこの里は、きのこの山が大ヒットした後に、明治製菓が1979年に発売した商品です。たけのこの里の特徴は名前と同様、たけのこの形をしているのとクッキー・チョコレートからできています。この、たけのこの里もきのこの山と同じく日本で大ヒットした明治製菓の代表商品です。

私は今日、この2つのお菓子の論争を見て私が感じたことに関してお伝えしようと思います。この2つのお菓子は40年以上前から論争中だそうです。その理由は、それぞれのお菓子が好きな消費者が「どちらがもっと美味しいか？」を議題に1980年代から論争を始めたからです。そして2019年、明治製菓が「きのこの山・たけのこの里」の国民総選挙を行い、1回目、2回目はたけのこの里が勝利しました。そして最後の3回目は、どんな結果が出たと思いますか？はい！3回目です。きこの山が勝利しました。しかし、2020年同じく明治製菓が行った「きのこの山・たけのこの里」国民大調査では47都道府県のうち、46の都道府県がたけのこの里を選択し、2020年日本チョコレート市場ランキングでは、たけのこの里が1位、きのこの山が7位を記録しました。

このような、明治製菓の積極的なマーケティングのお陰でこの論争は段々と、熱を帯びるようになりました。また、日本の芸能人や有名人が各々の好きなお菓子をSNSで投稿したりしました。例えば、女優の橋本環奈さんはきのこ派、そして、レスリング選手の吉田沙保里さんはたけのこ派であると言っています。これまでの戦績を見る限り、みなさんはどっちが勝っていると思いますか？はい。それはもう圧倒的と言ってもいい程にたけのこの里が優位に立っています。それでも沢山の人が今もきのこの山が好きだと言っています。

皆さんはこれを見てどう思いましたか？私はこれによって、きのこの山とたけのこの里が好きな人、嫌いな人、また、このお菓子以外にもたくさんの意見を人は持つようになったと思います。そして、人が注目するものには必然的に問題も起きるはずですが、それでも、私はそれによって生まれた効果と多様性に重みを置きたいと思うようになりました。その効果というものは、様々な話題のお陰で人々の相手の意見に対する許容範囲が広がったということです。その意見が一致するか否かは二の次で、互いに話し合っているうちに相手を理解するための第一歩になると思います。そして、そこから多様性が生まれるのです。

人は皆、違うから言葉を通して互いを理解していくものだと私は思います。世界で多様性

が強調される理由が少し分かった気がしませんか？この多様性とそれによって生まれた効果を日韓関係に当てはめてみましょう。隣の国同士だからか今まで沢山の出来事があって、それによる感情の谷もすごく深いです。しかし、私は今の高校に通いながら感じました。すべての韓国人が日本が嫌いというわけではないことを。日本の文化が好きという生徒もいて、韓国史の先生も日本が好きだと言っています。なので、私は日本が好きな人がいる限り日本と韓国両国の扉は閉ざされていない、40年後でも、もしくはもっと遠い未来にも日本と韓国が互いを理解し一緒に未来へ向かうことのできる友人になれると信じています。

以上で、私のスピーチを終わりにします。ご清聴ありがとうございました。

退屈なときは麻雀をしましょう

송용근(宋龍根、Song Yong Guen)

皆さん、こんにちは。皆さんは退屈な時何をしますか。私はいろんなゲームをします。その中でも麻雀というゲームが一番やっています。皆さんは麻雀というゲームを知っていますか。韓国では麻雀はあまり一般的なゲームじゃないし難しいゲームだしギャンブルだというイメージを持っているので大体の皆さんは知らないんじゃないかと思います。でも麻雀は日本ではすごく人気のあるゲームの一つです。大学生たちがサークルの活動として麻雀をしたり家で家族皆と一緒に麻雀をする話をよく聞きます。この麻雀というゲームは一体なんのゲームなのか、そしてこの麻雀の魅力はなんなんだろうかと私と一緒に見ていきましょう。麻雀は元々日本の伝統的なゲームではなく中国から生まれたゲームの一種です。日本では明治時代の末期から大正時代の中期に伝わりました。麻雀は基本的に4人で144個の牌を使って行うゲームです。この144個の牌の中で14枚の牌を自ら捨てて引いて麻雀で役というところを作るとその人は勝つことができ、負けた人からは点数をもらえるとというゲームです。ここで麻雀の魅力を感じる要素があります。麻雀は4人の中で誰かが早く役を作るのかのゲームです。麻雀で役を作るために、相手の捨てた牌を見てその相手が今どんな牌を持っているのか予想することがあり自分が持っている牌を見てゲームを降りるか勝負を続けるか判断することができます。このようなことをすることによって集中力と記憶力、予想力、判断力などが良くなります。こういうメリットがあるので海外では子供の脳を発達させるために、高齢者の認知症の予防のために麻雀をすることが多くあります。他の魅力もあります。麻雀は役を作るために牌を引きます。この時自分には必要ない牌が引けるかもしれません。自分に必要な牌を引くには運を必要とします。この運の要素で麻雀は一層楽しくなります。麻雀初心者でも他の人より牌が良く引けると上級者にも勝てます。逆に上級者でも牌が良くないと初心者に負けるかもしれません。このようなことで麻雀は誰もが油断せず最善を尽くせるゲームで魅力があります。最後の麻雀の魅力としてやはりみんなで楽しむゲームだということです。韓国では麻雀はすごく難しいという印象とギャンブルという印象があります。でもこれは韓国だけがこう思うのかもしれません。海外では子供も麻雀をすることを見ることができると聞きました。子供もできるくらいのゲームなら大人も難しいことはないでしょう。そして海外では麻雀はギャンブルというイメージではなくスポーツの一つとして考えられています。プロ選手権大会があるくらい海外での麻雀はあまりギャンブルの印象はありません。皆さん、みなさんも是非この麻雀をやって見てください。麻雀をしながら麻雀の魅力の一つづつ感じると麻雀は人生で第一のゲームになるかもしれませんね

三人の親友

신강성 (辛康盛, Shin Gang Seong)

こんにちは。今日は私を今まで生きてこられるようにしてくれた三人の親友について話したいと思います。

一番目の親友、Aとは小学生の時に会いました。馬が合った私たちはすぐ仲よくなりました。それから違う中学校に入っても連絡を続けながら、一年生の時は男子校によく慣れなかった私を彼女が力付けてくれ、二年生の時は悪い子たちにいじめられて自主退学した彼女を私が支えてあげました。

二番目の親友、Bとも小学生の時に会いました。コロナウイルスで学校をほとんど行かなくなった中学2年生の時、お互いに依存しながら本格的に親くなりました。彼は三人の親友の中で私と一番性格がそっくりで、今までも一度も喧嘩をしたことがないぐらいです。

三番目の親友、Cとは中学生の時に会いました。中学1年生の時、隣のクラスのCを見て最初から何と無く「友達になりたい」と思いました。しかし関係もない人に話をかけることなんて絶対に無理だった私はひたすら、同じクラスになることを祈ることしかできませんでした。その祈りが叶ったのか、中学3年生で同じクラスになり、その時私はどれほど嬉しかったか知れません。人生で最初で最後、先に話をかけ、一緒に本屋へも行きながら親友になりました。

今まで私の親友たちを紹介しましたが、皆小学や中学時代の友達です。

はい。私には高校の友達がいません。

今通っている学校はクラスに男の子が5人ぐらいしかいなくて、その中で気が会う友達が一人もいないことになってしまいました。最初は無理やりあの子たちと一緒にしようとしたが、あの子たちと私は水と油のように混じりませんでした。ある日、コロナにかかって学校を一週間出なくなった私は結局、クラスで独りになってしまいました。

寂しかったです。何度も転校しようと思いました。正直、悪い考えもしました。でもさっき話した三人がいて耐えることができました。苦しい日々を送っていたある日、私は気づいたのです。

クラスに友達がいなくても寂しい必要はありません。私には誰とも比べ物にならない、掛け替えのないあの三人がいるからです。いつも私を励ましてくれる三人がいるなら私はまた勇気を得ることができるのです。

卒業して、大人になって、就職してだんだん離れる友達がいないことには悲しむ必要がないのです。さっき話した三人はそんな仮初めの友達ではありません。大げさじゃなくて、私たちは互いのためなら死ぬこともできます。あの子たちがいるのに、私は何を寂びしがっていったのでしょうか。

人生で誠の親友が三人いるとそれは成功した人生だとよく言います。私には既にその三人がいるからもう幸せなのです。自分に本当に大切なことが何か気づいた私はもうクラスで独りであることにこだわらず、今やるべきことに集中しながら夢を追っています。これからもあの三人と幸せに生きて行きたいと思います。

御清聴ありがとうございました。

情報受給漏れ層

이수빈 (李守彬, Lee Soo Bin)

皆さんは友だちとメッセージを交わす時、どのくらい絵文字または、スタンプを使いますか。私は、文章は使わずに絵文字だけで話すくらい、たくさん使っています。私は絵文字の中でルピー絵文字が一番好きで、よく使いますが最近は何多の絵文字があり、友だちによって使っている絵文字が異なり、それを見るのが一つの楽しみでもあります。私の周囲でも、絵文字を使いながらメッセージを交すのを楽しんでいる友達もたくさんいます。このことから、日常生活でよく絵文字が使われていることがわかれると思います。

では、絵文字の活用度が高い理由は何でしょうか。それは、絵文字がメッセージだけで話をしたときの短所を補ってくれるためです。文字だけで話をした時には、表情としぐさのような非言語的要素を使えないので、自分が伝えようとするのに誤解が生じやすいです。友だちとメッセージで話していた時、「こうしたらどう？」とメッセージを送った友だちに「うん、好きにして」と返信しましたが、友だちは私が怒って「勝手にしろ」と言ったと誤解をしたことがありました。

その後、絵文字の重要性を感じ、絵文字について色々調べていたところ、ある目が不自由な方のインタビューが載っている記事を見つけました。目が不自由な方が友達が使っている絵文字が見えなくて困るという内容でした。

現在、目が不自由な方のために、絵文字を音声で説明するサービスがあります。ライオンが敬礼をしている「分かった」という意味の絵文字をそのサービスでは、ただ「動いているライオン」というキーワードだけで表現します。そのため、このサービスは目が不自由な方には、まだ使いにくいものだと言えます。目が不自由な方を考慮していない絵文字サービスは、むしろその人たちに疎外感を感じさせます。これを読んで、SNS サービスを利用する時、対象を考慮してサービスを構築することが重要だと思いました。

では、この問題をどのように解決したらいいでしょうか。私なりに、目が不自由な方に実際に役に立つような解決策を考えてみました。

目が不自由な方たちは、音声と感覚二つですべてのことを把握しています。この特徴を活かして、声のトーンと抑揚を使って細かいニュアンスまで表現できるように、隠されている意味を直接キーワードに追加すること、絵文字に込められている感情を点字に表す機械を開発することが必要だと思います。

今回のスピーチ大会をきっかけに、情報受給漏れ層の人たちに興味を持ちました。様々な媒体で、人と人の円滑な疎通のための研究をし、デジタル弱者を助けることができる人になりたいと思います。みんなが差別なく、楽しくコミュニケーションができる日が早く来ることを願っています。以上で発表を終わりたいと思います。ありがとうございました。

現在の私が過去の中で未来の自分を見つける旅程

이하늘(李ハヌル、Lee Ha Neul)

みなさんは未来と聞いた時、何が先に思い浮かびますか？未来というのは辞書には現在の後に来ることだと明示されています。つまり、未来はこの先から起きることです。ところで、辞書にはもうひとつの意味が書かれています。それは将来で、これが今からみなさんに話そうしていることです。

まず、将来を語る前、私の過去について話してみます。私は幼少期の頃にはたくさんな夢がある無邪気な子でした。周りからは、「ハヌルちゃんって勉強も上手な上に頭もいいし、性格も素直で、真面目な子だから未来にはきっと偉い人になれるよ」と言われて、何でもできる気がしていたからです。しかし、これは中学生までの話です。

高校生になってはたくさん失敗を味わいました。好きな科目でいい成績を取れず、一生懸命準備した部活のオーディションにも落ちました。それだけでしょうか、友達が誘ってくれたのに、学級委員選挙では一票しかもらえませんでした。これをきっかけに、私は残っていた最後の自信さえ失え、生きる意味をなくしてしまいました。「私はできない子だ」「この世から消えてしまいたい」と思いながらも、どうすれば楽になれるか、生きる意味を探し続けました。

とりあえず、好きな物から考えてみました。私は日本のアニメと曲が好きです。日本のアニメはイラストもきれいし、キャラクターたちも可愛し、何よりあらゆるジャンルがあって面白い話がたくさんあったからです。日本の曲は韓国と違って、MVがアニメで作られて、その曲自体がひとつのショットアニメになります。そんな曲のMVと歌詞を分析して、ストーリーを見つけるのが私には楽しい時間でした。最後に今年の1月、大阪で二週間ぐらいホームステイをして、短いけど日本での暮らしを思う存分楽しみました。その結果、私は日本に関したことをするとき、一番幸せだという結論にたどり着きました

それを知った日から、毎日好きなものに囲まれて暮らせるように、私の心は楽しい思い出が溢れる大阪に住みたいという気持ちでいっぱいになりました。そのため、将来には日本で就職したいという夢もできて、今はその夢を叶うために日本留学を目指しています。

これが今までの私の話です。もし、失敗した過去がなかったら、今にでも自分が本当にやりたりことをよくわからないと思います。みなさん、過ぎてしまった過去には戻れません。そして、現在の我々がこの先にあることも不可能です。でも、この二つを繋げる今があるから人生が完成すると思います。私はみなさんに未来だけ語るんじゃなくて、何で私がこんな未来を夢見るようになったのか、この先どうしたいかを話したかったです。「なりたい自分があったら、まずそれを演技しろ」という言葉もあるように、今までの私とこの先なりたい自分の話が自然に繋がるように現在で間のストーリーを完璧に作りたいです。

人生のターニングポイント

정하은(丁ハウン、Jeong Ha Eun)

皆さんこんにちは、ソウル世宗高校二年丁ハウンと申します。早速ですが、皆さんには自分の人生を大きく変えたものがありますか？このスピーチのタイトルの「人生のターニングポイント」に入ってるターニングポイントとは分岐点、ある状況が違う方向に変わるきっかけを意味します。人それぞれ多かれ少なかれ一度くらいは経験したことがあると思います。もちろん私にもあります。その一つ目はアニメに出会ったことです。

あれは今から8年前、私が小学校3年生だった頃。普段から仲の良かった兄と一緒にYouTubeを見てました。兄は私より先にアニメに触れていて、それを私にも見せてくれました。もしかしたら私はアニメに一目惚れをしたのかも知れませんが、その動画を見た時から、私の運命は変わったのでした。自分で直接探して見るようになり、いつの間にか兄よりアニメが好きになっていて、日本語も少しは話せるようになりました。そしてもう一つのターニングポイントに出会います。

小学校6年生、外で走りながら遊ぶことより家でゲームをする方が好きになった頃、いつものようにゲームしながら日々を送っていた私はあるゲームを見つけます。その名も「VRCHAT」。そのゲームは名前通り架空世界の中でいろんな国の人たちと話すゲームでした。アニメで育てた日本語の実力がどれほど本物の日本人に通用するのかが気になった私は早速ゲームをプレイしてみました。初めは知らない人と話すのが苦手でしたが、段々と友達もでき、念願の日本人と話してみることが叶いました。人と話す性格が明るくなるという教もゲームで覚えました。そして私は話すだけでは何か物足りないと感じ初めました。

中学一年生、日本語で自分だけの話を書いてみることに挑戦しました。ひらがなもまともに書けなかった私でしたが、書いてる内に漢字の実力も増えて語彙力も少しは良くなりました。中学生の青臭い妄想でできた幼稚な話でしたが、今ではいい思い出として残ってあります。

中学二年生、ある程度日本語が書けるようになった私は本の翻訳に挑戦することにしました。やっぱり本には難しい漢字が沢山出てきて一ページ翻訳するのに手間と時間が物凄く必要でした。でも知らない漢字を知っていくたび次々と翻訳の速度が上がりました。そして翻訳を終えた時、私は自分が他国の言葉を自分の国の言葉に表現できたという充実感に満たされました。日本語って楽しい。ただそれだけが頭の中にいっぱいでした。私の日本語への関心度が一気に爆上がりしたのでした。

中学三年生、そろそろ進路について考える歳になった私は日本語関係の仕事がしたいと思い始めました。そして出てきた結論が日本語の先生になることでした。昔から何かを教えるのは好きでしたし、きっとこの仕事なら長く続けられそうな気がしたからです。最近では日本の文化に興味を持ってくれる友達が増えましたので、私が少しだけでも日本語を教えたりしています。

人生にはいろんなターニングポイントがあります。それをあの時は意識してないですが、あとで考えてみると気づくことができます。何も考えずに起こした行動があとで考えてみるとその理由になっていたとか。これから私たちの未来にはどんなターニングポイントが待っているのでしょうか。

最後までお聞きいただき、ありがとうございました。

日本語で学んだ教訓

한지예 (韓ジイエ、Han Ji Ye)

皆さんは「浦島太郎」についてご存じですか。「浦島太郎」は韓国にはあまり知られていない日本の御伽噺です。私は「浦島太郎」を名探偵コナンを通して知りました。 昨年の冬、名探偵コナンをみていたところ「開けてはならない玉手箱かも」という文章を聞きました。私はその文章で玉手箱という単語が気になりました。玉手箱というのを初めて聞いたと言うこともあります。それが気になったもっとも理由は玉手箱が韓国語の字幕では「パンドラの箱」と書かれていたからでした。それを機に玉手箱について調べると、玉手箱は浦島太郎という御伽噺から由来した表現ということを知りました。玉手箱について知るため「浦島太郎」を読んで、玉手箱について探索する過程から私は貴重なことを学びました。私はこのことを皆さんと分かち合いたいと思ったので、私が学んだことについて話させてあげたいと思います。

まず、浦島太郎という御伽噺をととても簡単に言うと、浦島太郎という主人公が玉手箱を開けると、おじいさんになってしまった内容です。

私が浦島太郎を読んだ後、初めて感じたのは「困惑」でした。何を伝えたいのか、それで玉手箱はいったい何なのか、理解できないことばかりで、玉手箱とパンドラの箱の間に何の関係があるのかも見当がつかなかったのです。私が考えていた「パンドラの箱」の意味は「開けたら大変なことになるが、その後、希望ができて問題が解決できる。」でした。この意味から言うと玉手箱とパンドラの箱には違いがでてきます。浦島太郎と言う御伽噺では玉手箱には希望はなかったからです。それで玉手箱の意味を知ろうと、辞書を引き始めました。辞書には「秘密にして、容易には人に見せない大切なもの。」とか、「すばらしいもの、珍しいものが多くあること。」とかが書かれていました。なぜか玉手箱について調べれば調べるほど解りにくくなりました。私は今になってあの時の自分がなぜそう感じたのか分かりました。私は玉手箱に集中し過ぎたせいで重要なことを逃していました。逃していたのは、私が「パンドラの箱」の意味を間違えて知っていたのです。パンドラの箱の意味は「わかってもいいことがないとか危険な秘密」でした。私は私の勘違い失望しました。

私は玉手箱について探索していく過程で色々なことを学び、感じ取りました。その中でよかったのは、探索の過程でした。玉手箱の意味を知るため色々なところで意味を調べたり、じっくり考え込んだり、周りの人に聞いたり、そして過ぎていたこと全てが何よりも大切な経験となりました。そして新しく感じ取ったのは「思い込んでいたことも疑う姿勢の必要性」でした。玉手箱とパンドラの箱の違いを感じた時、意味をはっきり知っていたと思ったパンドラの箱の方は考えもせず、全然知らない玉手箱の方だけを調べた私の勘違い。これは決して忘れられない教訓となり、私の心に刻まれました。この経験は、将来、私が大きな試練に遭った時、問題の原因を把握することに役立つと思います。

私の夢

김소헌(金昭憲、Kim So Heon)

私の夢は歌手になることです。幼い頃から大勢の前で歌うことが夢でした。歌手という夢を具体的に決めたのは小学5年生のころでした。珍しいことに、あの頃の私に歌の夢を持たせてくださったのは今どきのアイドルやシンガーソングライターではない、今から50年、40年ほど離れてる昭和時代の歌手さんたちでした。YouTubeで初めて接した山口百恵さんは今まで見てきたすべての歌手の中で最も私を魅惑させました。こんなカリスマを持った歌手はどこにもいない、と思いました。そして河合奈保子さんや石野真子さんなどの方々を見て「こんな歌手になりたい」とかすかに思い始めました。11歳だった私はあの時から古き良き昭和時代の音楽を聞き、レコードを集めました。学校が終わったら友達とも遊ばずに家に帰って松田聖子さんや中森明菜さんの動画を見ながら自分があの時代の歌手になったように歌を歌い、ピンクレディーの振り付けを真似しながらいつかは本当の舞台に立ちたいと思いながら夢を育ててきました。ですけど残念ながら今は昭和時代ではありませんでした。私の理想だったあの方たちは今でも伝説ですが若い世代にはもうメジャーではありませんでした。昔の良いところを取ることはいいと思いましたが、過去ばかり見て現在の音楽市場のトレンドや人気の要因を研究しないと結局私と同じ趣味の人たちにだけ私の歌が届かないと思い、今の人たちにも癒しをくれる歌手になるには最近の曲や歌手さんについても詳しくなるのがいいと考えて、どんどん90年代、2000年代、そして今どきの歌手さんたち音楽も聞き始め、平成や令和にも実力があって人を引き寄せるようなカリスマを放つ歌手さんがいっぱいいると悟りました。長い間日本の音楽を楽しんで誰よりも歌に自信を持ってきた私は最終的に日本で古今の良さを持った、今の世代だけでも昭和の世代だけでもない幅広い世代の心を癒す歌手になりたいと決めました。70、80年代歌手さんの古典的な歌唱力と今どきの歌手さんの特殊なきらめきをすべて持つ歌手になって、日本の音楽史に残る歌手になりたいです。夢を叶える道は遠く険しく、韓国人としてこの夢を叶えるのは他人よりも倍で精一杯頑張っていかななくてはいけないと思いつつながらこれからも頑張つて夢に向かっていきたいと思つています。ありがとうございました。

私の夢とハマる事。

서다솜 (徐ダソム、Seo Da Som)

皆さん、こんにちは。私はソダソムと申します。どうぞよろしくお願いたします。皆さんは何かハマったことがありますでしょうか。既に何かハマっている方々もいらっしゃるでしょうし、まだハマると言う事を経験した事がない方々もいらっしゃるでしょう。今回の発表では私が経験したハマる事について話したいと思います。私が小学校6年生だった時、宮崎駿監督の「千と千尋の神隠し」と言うアニメーションを見たことがあります。魔法がかけられたような場面を見て、春の季節を思わせる暖かい音楽とセリフを聞いた瞬間、私はすぐにアニメーションにハマってしまいました。アニメーションにハマってから私の生活はすっかり変わってしまいました。私は直接アニメーションを理解したくて日本語を習い始めました。また、魔法みたいな絵を描きたくて一日も欠かさず絵を描きました。そんなに日々がどれくらい経ったのでしょうか。私は「私も誰かにアニメーションにハマってもらえるようなアニメーションを作りたい」と言う夢が出来ました。その夢は私の胸を張り裂けそうにわくわくさせました。どんなに辛いことが重い石ころになって私を押さえつけても、私は夢のためにその石ころを踏み石にして、また頑張ることができました。こんなに大切な夢のおかげで私はいろんな事に挑戦できるようになったし、日本語が大好きになって、今ここに立つことができたのです。アニメーションを通じて得た幸せと楽しさを他の誰かにも伝えてあげたいです。夢を叶えるのは決して優しい事ではないでしょう。もしかすると私が大人になっても、100年が経っても叶えないかもしれません。でも、私は出来る限りの最善を尽くして見ようと思いました。自分との約束を守るために、私は毎日絵を描く事も日本語の勉強も休まず頑張っているのです。これから私はアニメーションを製作してユーチューブにアップロードしてみたいと思います。もっと多くの方がアニメーションにハマれるように韓国語と日本語字幕付きで描いてみたいです。こんな努力を通じて私は自分の夢に一歩ずつ近づいていきたいと思います。人々はこんな私に無駄な事をするなど言ったり、学生身分で大変じゃないかと言ったりします。もちろん私も自分のやっている事が無駄ではないかと思ったこともあったし、大変だった時も多かったです。でも、私はもうアニメーションにすっかりハマってしまったのでどんなに大変でも構いません。このような私の経験はいくら強い風でも揺れたり折れたりしないようにしてくれました。好きなことが多くなって自分の世界がだんだんと広がり、その世界に最善を尽くすようになったのです。時には辛くて大変であっても自分を幸せにする事、皆さんはありませんでしょうか。

スマートフォンとコミュニケーション

손하영 (孫廈瓔、Son Ha Yeong)

皆さんはスマートフォンを持っていますか？

今の時代は、スマートフォンを持っていない人を見つけるのが難しいほど多くの人がスマートフォンを持っています。アメリカのピューリサーチの調査によると、韓国は100%、日本は92%の人がスマートフォンを持っているそうです。このように皆がスマートフォンを使うようになり、私たちの生活にも多くの変化が出てきました。その良い影響としては、やはり遠くからでも話ができたり、知らないことを探しやすいようになったということと言えるでしょう。しかし、すべてのことには両面があるように、スマートフォンを使ってから現れた否定的な影響もあります。私はここでコミュニケーションの不在が1番の問題だと思います。

あれ？さっき、遠くからでも話ができると言ったじゃないですか？

そうです。しかし、コミュニケーションには様々な形があります。スマートフォンで増えたコミュニケーションの形は 音声会話ではなく、文字メッセージのことです。

多くの人は音声会話より文字メールや、インスタントメッセージとか チャットなどでコミュニケーションを取っています。目の前に相手がいっても顔を見ながらするコミュニケーションではなく、スマートフォンで文字を打つコミュニケーションを好んでいます。しかし、文字だけでは人の思っていることを細々と話すことはできません。むしろ、より多くの誤解を招くこともあります。文字メッセージ方式の非対面会話は文字、あるいは小さな絵文字だけで会話を続けることになります。

このようなコミュニケーションは、自分の言葉がどのように解釈されるのか、その結果どのような影響を与えるのか分かりにくいです。それで、文字だけのコミュニケーションは向かい合っている会話より誤解の余地が多くなりがちです。また、誤解は関係の断絶にもつながる原因となります。

しかし、対面会話は誤解の要素を最大限に減らしてくれます。

対面会話は 顔の表情、音声、ジェスチャー、目つき、話し方、身振りなどいろいろな非言語的な要素と言語的な要素が混ざってあるコミュニケーションの取り方です。

このような非言語的な要素から私たちが得られる情報は、思っている以上の働きをします。だから指でやっている文字コミュニケーションではなく、お互いに向かい合って会話をするのが真の会話だと言えるでしょう。

人は誰でも他人との関係の中で生きていきます。そんな存在にとって一番大切なのはやはりコミュニケーションだと思います。お互いの話を聞いて、お互いを理解し合うのがコミュニケーションでしょう。

技術の発達により、人々は遠くからでも話ができるようになりましたが、その技術に頼りすぎてコミュニケーションを自分が楽な方だけやっていこうとしています。

それは友人、家族、または愛する人を深いところまで分かり合う大事な機会を失ってしまうことになるかもしれません。

今からでもこのスマートフォンをしばらく置いて人々の顔を見て、声を聞きながらコミュニケーションを取るのはいかがでしょうか？

私の夢見る未来へ

송채은(宋采恩、Song Chae Un)

「ここは建築的にもユニークな建物なんです。妙に不思議な雰囲気まで感じられます。桜が咲く春になるときれいな写真が撮れるでしょう。まるで時代劇の主人公になった気分になれるかも知れません。」

みなさん、こんにちは。私の名前はソン・チェウンです。今私がお話した文章、どうでしたか。上手でしたか。発音、アクセント、イントネーションがめちゃくちゃですよ。実は私、先週、他のスピーチ大会の準備をしてたんです。最初にお話したのはその台本でした。

私は小学5年生の時から、日本の文化にハマって、アニメやYOUTUBEなどを見ながら、自然に日本語が話せるようになりました。その時からずっと、私は、自分の日本語の実力がかなり高いんじゃないかなと思っていました。アニメも、ドラマも、YOUTUBEの生配信も、字幕無しで聞き取ることができるから。さらに、去年は日本語能力試験2級まで合格できたので、「日本語なら自信ある」と思っていました。なのに、二回のスピーチ大会を準備しながら、日本語の先生に散々言われたのが「だめ。違う。やり直し」という言葉でした。

「アクセント間違ってる。」

「イントネーションおかしい。」

「鼻声で聞きづらい。」

頑張って練習しても、「先生の耳」にはなんか違うみたいでした。何が問題なんだろう。自分に足りないのは何なんだろう。最初は単純にアクセントの勉強が必要なのか、イントネーションを全部ペンで描いて、全部覚えたらいいのかなと思ったんですけど、そこじゃなかったんです。

私の問題は「自分の音が聞けない」ということでした。目に見える単語や文法の間違いはすぐ気づくけど、目に見えない「音」は間違いを認識すらできない。私はいわゆる日本語音痴音痴だったんです。先生によると、内容が合っても音が間違っていたら、自分の言いたい気持ちがちゃんと伝わらないそうです。単語と文法を勉強すれば日本語で話せるけど、気持ちまで伝えるのはその以上の何かが必要だということでした。つまり「音」は人の気持ちを表すものだったんです。

「今、怒ってる？」

なんでそういう風にいうの？

気持ちがこもってない。」

普段周りの友達によく言われる言葉です。「冷たい」とか、「愛想悪い」とか、よく誤解されるんです。もしかしたら私、今までコミュニケーションをとっていながら、話の内容だけ気にして、気持ちを伝えることは気にしていなかったのかもしれない。この中にも私みたいに、自分の気持ちがちゃんと伝わらなくて困った経験をした方や、ちゃんとした日本語の文章を作ったのに、相手の表情から、なんか違和感を感じた経験をした方もいらっしゃるかもしれません。喧嘩したり、誤解が生じた時など、否定的な感情を表現しなければならない時はもっとそうでしょう。心から感謝の気持ちを伝えたいのに、「ありがとう」の他に、

何をどう話せばいいのか戸惑ったりすることもあります。スピーチ大会に出て、まだまだ下手な日本語で、一生懸命考えたストーリーが初対面の方々にちゃんと伝わっているのかドキドキすることもあるでしょう。

どうですか？今私の気持ちはちゃんと伝わっていますか？目に見えないものまでちゃんと伝わっていますか？私は外交官になるのが夢です。この目に見えないものは人と人との関係だけでなく、国と国との関係にも大事だと思います。外交官は国と国とのコミュニケーションを担当する仕事ですから。いつか大人になって目に見えないものまでも伝えられる外交官になれば、今日のこのスピーチが最初の一步だと言えるでしょう。その日のために頑張ります。ありがとうございました。

競技かるたと私の夢

이아림 (李娥林, Lee Ah Lim)

皆様が日本語を勉強し始めた理由は何でしたか？私は百人一首と競技かるたのおかげで日本語を勉強し始めました。私が百人一首を知ったのは小学生の頃です。偶然に聞いた百人一首朗読はとても綺麗で私の心に残りました。競技かるたについて知ったのはその後のことです。すごく静かだけど気迫のある競技かるたの試合を見た瞬間、私はいつか自分でかるたをやってみたいと思いました。これが私が日本語の勉強を始めた理由です。それでは百人一首と競技かるたとは何でしょうか。まず、百人一首は日本飛鳥時代末から鎌倉時代初めまでの百人の詩人達の和歌を集めておいたものです。この和歌は一人につき一つに当たります。この百個の和歌を緑色のカードに書いてするスポーツが競技かるたです。かるたをする時に使うカードを札と呼びます。この競技かるたと言うスポーツは畳上の格闘技とも呼ばれ、日本では名人戦やクイーン戦などの色んな大会が行われています。競技かるたのルールは簡単に見えますが、直接してみると難しいです。競技かるたでは百個の札が全部使われるわけではなく、五十個の札だけが使われます。また五十個の札を二人でそれぞれ二十五個ずつ分けて試合をします。札を全部分けてからは畳上の自陣に札をおいて十五分間暗記します。競技かるたの札には下句だけが書いているので、朗読者が上句を読んだらそれに当たる札を相手より先に触る方が札を貰います。このように試合を進めてまず自陣の札を全部なくした方が勝ちです。札を取る過程で当たりの札がある陣の札は触っても大丈夫ですが、他の陣の札を触ったり最初に選んだ五十個の札以外の和歌を朗読しているうちに札を触ったら反則になります。百人一首と競技かるたについて興味を持っていただけましたでしょうか？楽しい事は分かち合いたいので、ぜひ一度試合を見ていただきたいです。私はまだ決まり字を覚えている初心者ですが、このような私には大きな夢があります。ちなみに決まり字と言うものは競技かるたで正確な札を取るために聞かなくてはいけない最小限の文字です。競技かるたは実力によって等級が分かります。等級はA級からE級まであり、参加できる大会も等級によって違います。私の夢はいつか日本でB級大会に出場して優勝し、A級になることです。それでは最後に私が一番好きな和歌を朗読して終わります。「ながらえば またこのごろや しのばれむ 憂しと見し世ぞ 今は恋しき」この和歌を現代の日本語で言うところのようになります。「このまま生きて長らえば、辛い現在も後には懐かしく思い出されるのだろうか。あれほど苦しかった昔が今では恋しく思われるのだから」以上で発表を終わります。ご清聴いただきありがとうございました。

重粒子治療、未来へ私の挑戦。

임지민 (任祉眠、Lim Ji Min)

皆さん、こんにちは。普段日本語と科学と医学に興味があって将来に日本で医者になりたい、イム・ジミンと申します。

日本の医学技術は重粒子治療分野で世界的なリーダーの役割を果たしています。今日は、現在医療界で注目されている日本の東芝が作った重粒子治療についてお話をしたいと思います。まず、重粒子治療の歴史と、簡単な原理を説明します。

日本千葉市に位置するQST病院から重粒子治療の機械は約10年で完成しました。1994年から臨床実験が始まり、難病の治療に使用されています。治療実績を積み重ねながら照射技術の高度化や普及に向けた小型化に向けた研究開発が開始されました。現在、全世界で日本が重粒子治療について活発な研究および治療を行っており、東芝という日本の会社が治療装置の開発と生産でも先頭に立っています。

次は重粒子治療方法についてご紹介します。重粒子治療は、がんや腫瘍などを治療するために中性子を用いる方法です。炭素のような重い粒子を加速させ、エネルギービームをがん細胞にのみ精密に照射する治療方式です。長所としては、ほとんどのがんや腫瘍に適用可能な治療です。治療時間が30分以内で、痛みや出血はありません。そして、治療後すぐに日常生活が可能で入院、手術が必要なく、高齢者でも治療を受けることができます。このような技術は、患者の生存率と生活の質の向上に大きく貢献しています。また、日本の研究者たちは重粒子治療の効果予測と個人オーダーメイド型治療計画を樹立するために人工知能とビッグデータ分析を活用する研究にも多くの努力をしています。このような研究は患者の個人的な特性と腫瘍乙の特性を考慮して治療効果を予測し、最適な治療計画を提示することで治療成功率を高めるのに大きく寄与しています。

最後に、私は日本の研究者たちの情熱と挑戦精神に感謝します。彼らの研究は、重粒子治療の分野で新しい治療法を形成し、より良い未来を切り開きました。私はこんな日本に憧れて、日本で科学と医学を組み合わせ、難病や、大きな苦痛を受ける人々を救う医者になりたいです。また、韓国と協力ネットワークを構築して協力し、これを基に日本の技術を様々な国との知識共有と協力を通じて重粒子治療の進歩と医療技術の発展を促進したいと思います。そして、私は世界市民になりたいです。韓国と日本という国を越えて多くの挑戦と困難があっても、医療インフラと接近性に対する多くの苦難を経験している必要な地域に行きたいです。私は社会的弱者と最も脆弱な人々のために助けの手を差し伸べたいと思います。患者様とのコミュニケーションにも努め、彼らに合わせた治療を提供できるようにします。それだけでなく、医療奉仕のためにたゆまぬ自己啓発と持続的な教育を通じて専門性を向上させます。以上です。ありがとうございました。

日本人のニッコリの秘密

최승은(崔升濤、Choi Seung Eun)

こんにちは、皆さん。

日本語という大きいことに通じ、関心と熱意を持ってこうして同じ場所でみんな出会って嬉しいです。ここで出会った私たちは日本の小説、まんが、歌、アニメ、ゲームなどで簡単に日本の文化と日本語をふりあって、興味になることになりました。この興味を基にして日本語をたくさん勉強した結果、日本語実力が伸びたためここまで来られました。

みなさん！、承知しましたか？

私を含めて、1次会に合格したすごい兄さん、姉さん、そして友達にもう一度おめでとうございます。私たちが完璧に日本語を使っても日本の文化の知識が足りないなら日本人と話すのは簡単なことではないと思っています。わたしは普段、テレビで出てくる日本人たちが話をする時、ニッコリ笑顔をしてとてもやさしい姿をみました。

“ワ、めっちゃニッコリしている！親切が身に付けている！、日本にいつか行ってみたい！”という時もありました。正直、韓国のサービス業の店とか食堂でも、時々あいさつをしなかったり親切ではない店もあります。町にある人達もニッコリしてないです。コロナウイルスのせいでマスクで顔をかくしたまま長い時間たえるせいみたいです。今はマスクを外して外に出ますが、昔のほほえみはしてないです。この機械に日本の文化を勉強しながら日本の「本音と建前」の文化をしりました。

「本音」は個人の心を言い、「建前」は社会的な規範に基づく意見を表すのです。日本人たちは自分の生き残りや隣の平和のための手段でこの二つを区別して使うのがなれているようです。相手の気持ちを考える話し方で遠回しに言うようです。互いの造化が割れないように見せかけ言葉かもしれないが、話をする時に相手に不快感を遮ることができるように、造化を追い求める日本人の性格を学ばなきゃならないと思っています。「自分がこう言えば相手がどう受け入れるのか」を先に考えて気をつけるコミュニケーションが「本音と建前」の歴史的な背景になったようです。日本人は、会議でもできるような満場一致で意見を集める傾向がありますし、目上、親しくない関係、友達、家族の間、いつもありがたいと言い努め、「ありがとう」とか「ごめんね」をよく使うようです。食事に誘われて食べる時も食事の味をぞんざいに評価しないのが礼儀正しいので、話をする時に相手の話をよく聞くのを伝えるのです。日本人たちは話をする時に視線を避けるのが礼儀正しいようです。その中には相手に世話にならないの心が込めています。自分の視線で行動し、評価し、他の人がどう思ったか別に気にしない韓国のMZ文化の中で生きて行く一人と言います。我々が日本語を上手に扱うことも大事ですが、日本の文化と日本人の日常生活の行動と礼儀をわかって日本人と話し合う素晴らしい人で自分がキラキラ輝いて欲しいです。最後にアメリカ、日本、韓国が親しくなるととても嬉しいです。

ありがとうございました。

変えるボランティア

황지안(黄智眼、Hwang Ji Ahn)

小学6年生の夏休み、友達と学校周辺に散らばっているゴミを片付けたことがあります。その時、私の町は工事の真っ最中で、ほとんどが廃墟みたいになっていました。そこには人も通わず、見る目もあまりなくて、捨てられたゴミがその道の主人とも言えるほどでした。ところが、よりによってその汚い場所はその時私たちが通っていた小学校の後門とつながっていて、いつもその道を通って下校する度に心が痛かったです。視線を向けるところはいつ捨てられたかも知れないゴミでいっぱい、そんなそこを見ながら私たちは何か状況を好転させる方法はないのかと悩みました。そうしてみんなで夏休みにゴミを拾おうという思いを合わせるようになったのです。時間が経って夏休みになったばかりに私たちは各自の家から従量制袋とビニール手袋をいくつも持ってきて、ゴミを拾い始めました。おそらくその時が私の人生で一番ゴミをたくさん見てたくさん触った日だったと思います。最もよく見られるタバコの吸殻から、酒瓶、あらゆる生活用品などがその広い道端に転がっていました。もちろんそんないろいろなゴミを拾うのも簡単ではありませんでした。ゴミを拾う専門装備もなく、純粋に腰を曲げてゴミを一つずつ拾っていたら、ゴミ拾いを始めて30分ほど後からは腰が助けてと叫んでいるようでした。そしてその日は特に風が激しく吹いていたせいで拾おうとしていたゴミが風に飛ばされ、日差しの強い夏にゴミと鬼ごっこを楽しんだりもしました。そうやって一生懸命ゴミを拾って2時間ほど後、私たちはその近くのベンチでご飯を食べることにしました。疲れた腰を叩き、空腹のお腹をおやつでいっぱい満たしながら話しました。「私たち本当に頑張ったね」と。その通り私たちが持ってきた従量制袋のほとんどはすべてゴミでぎっしり詰まっていました。その日はゴミを拾うのに適切な日ではありませんでしたが、私たちはゴミを拾うそのすべての時間の間に一度もそれを後悔したり粗雑にしようとしませんでした。私たちが住んでいる町を片付けること自体に意味を置いて行動した純粋な奉仕精神のためだったと思います。大変でもありましたが、それだけ嬉しくて幸せでした。そして今まで、その日の事は私たち7人の特別な思い出として残っています。

ボランティアは周りだけでなく自分自身まできれいにしてくれます。ボランティアをした後には世の中にもっと良い影響を与えたい気がします。それで私はゴミ拾いをした後から道にゴミを捨てなくなりました。ボランティアはそれだけ私に大きな変化をくれたのです。その影響はここで止まらず、私が中学生になってからも続きました。先ず、1年生の時は学校のゴミ捨て場と教務室で掃除の仕事をして、冬休みにはごみ拾いをしました。そして現在は生徒会として学校の生徒たちのために奉仕しています。こんな活動を続けながら私は再びボランティアの重要性を思い出させました。皆さんもぜひ社会に必要なボランティア活動に関心を持って、少しずつでも実践できる雅量を持っていただければいいと思います。そうすれば世界はきっと早く確実に変わることができるでしょう。

お聞きくださりありがとうございます。